

宝

Takarazuka City

●宝塚市市勢要覧 2014

塚

目次 CONTENTS

第1章

ふるさと宝塚の原点。
～ここにあるもの～ 1

CHAPTER 1

宝塚市制 60 周年 2

CHAPTER 2

宝塚歌劇 100 周年 4

CHAPTER 3

手塚治虫記念館 20 周年 5

第2章

訪れてみたいまち
熱気、活気、癒し、うるおい。
まちを盛り上げる人たちの
熱い思い 6

第3章

住み続けたい、
関わり続けたいまち

CHAPTER 1

「命」を大切にする
支え合いのまちづくり 10

CHAPTER 2

住民参加のまちづくり 12

CHAPTER 3

誰もが自分らしく、
心豊かに生活できる
まちづくり 14

CHAPTER 4

自分を大切に 人を大切に
ふるさと宝塚を大切にする人づくり 16

CHAPTER 5

安全・安心なまちづくり 18

市政・議会

20

宝塚市インフォメーション

21

MAP

22



市民の力が輝く 共生のまち 宝塚

武庫川の清流と、六甲・長尾山系の緑に象徴される豊かな自然環境に恵まれた宝塚市は、2014年4月1日に市制施行60周年を迎えました。同時に、世界的にも有名な宝塚歌劇が100周年、日本を代表する漫画家・手塚治虫氏の功績を紹介する手塚治虫記念館が20周年という節目の年です。

本市は、この恵まれた環境と、先人が長きにわたって築き上げてきた歴史と文化を背景に、これからも市民と手を取り合い、いつまでも住み続けたい、関わり続けたい、訪れてみたい魅力あふれるまちづくりを進めていきます。

「宝塚市市勢要覧2014」は、本市が誇る地域資源や、市民との協働が織りなす「宝塚ならではの」のまちづくりを紹介するなど、まちの魅力が詰まった冊子となっています。この市勢要覧を通して、わが町への思いを一層深めていただくとともに、魅力再発見の一助としていただければ幸いです。

宝塚市長 中川 智子

Takarazuka, town of harmonious coexistence - The power of its people sparkles

Surrounded by a naturally abundant environment, including the clear flowing Mukogawa River and the lush green of Rokko and the Nagaoyama mountains, the city of Takarazuka now celebrates the 60th anniversary of its foundation. This year also brings us the 100th anniversary of the world-famous Takarazuka Revue, and the 20th anniversary of the Tezuka Osamu Manga Museum, which displays the achievements of prominent Japanese manga artist Osamu Tezuka. Against the backdrop of this wonderful natural environment, and the history and culture built up over time by our predecessors, the people of Takarazuka continue to work hand-in-hand to make Takarazuka into a city that people want to keep living in, visiting, and supporting.

"Takarazuka City Overview 2014" is filled with the charm of our city, introducing its regional resources, and unique aspects of the community brought about in cooperation with its citizens. We hope that this pamphlet helps to deepen your feelings for our city, and lets you rediscover its attractions.

Tomoko Nakagawa, Mayor of Takarazuka City



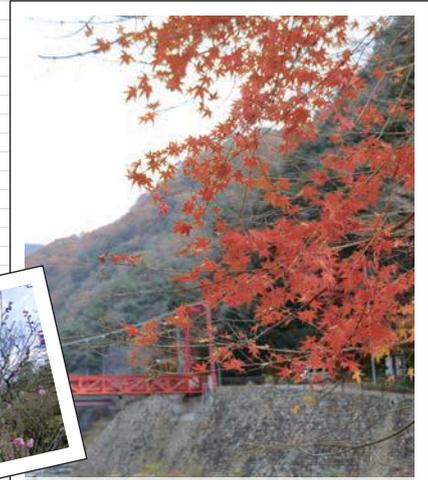
TAKARAZUKA THROUGH THE SEASONS

宝塚の四季を感じて

Experiencing the Four Seasons in Takarazuka

このまちが好きだ。
 豊かな自然、歴史あるまち並み、
 薫り高い文化・・・
 そして何より、このまちの「人」が好きだ。
 何から伝えていこう、このまちの魅力を。
 どうか知ってほしい、このまちの宝を。

市制 60 周年。
 刻んだ歴史は心に深く息づいて
 新しい歴史を刻む礎となる。
 羽ばたこう、より一層輝き続けよう、未来へ。
 新しい物語は始まったばかりだ。



秋

多くの人の心を癒す
武田尾の秋。

春

花のみにすみれの花が咲く頃、
宝塚を訪れる本格的な春。



夏

華やかな花火が夜空を彩り、
まちが活気に満ちる夏。

冬

記録よりも記憶。
人がふれあいその輪が広がる宝塚の冬。



宝塚市制60周年

宝塚市は、平成26（2014）年に市制60周年を迎えました。さらに、宝塚のまちとともに歩んできた宝塚歌劇が100周年、手塚治虫記念館が20周年という記念すべきトリプル周年です。

この年を記念して、「住み続けたい、関わり続けたい、訪れてみたいまちをめざして」をコンセプトに、新しい事業にも取り組んでいきます。宝塚のまちが大好きだから…みんなで支え、みんなで祝う還暦。

In 2014, Takarazuka City is celebrating the 60th anniversary of its municipal organization. Furthermore, it will be all the more memorable, with three anniversaries in total, the other two being the 100th anniversary of the Takarazuka Revue and the 20th anniversary of the Tezuka Osamu Manga Museum. We are planning a lot of anniversary projects as we strive to be a city where people want to keep living, want to be involved, and want to visit. Because we love the city of Takarazuka, we support it, and celebrate its 60th anniversary together.

「60歳、おめでとう。」

写真は「宝塚市制60周年カウントダウン」にご協力いただいた市にゆかりのある皆さん



宝塚市60年の足跡

The 60 Years of History of Takarazuka City



昭和30年代の旧市庁舎

【誕生】

昭和29(1954)年4月1日、武庫川を挟んで左岸の宝塚町と右岸の良元村が合併し、県下15番目の市として宝塚市が発足しました。市として発足した当時の人口は約4万人で、田園風景の広がるのどかなまちでした。

【成長】

昭和30年代に、湯本町が温泉街としてにぎわい、まちに映画製作所があったころ、インフラ整備が急ピッチで進み、人口が右肩上がりが増えて、まちは成長の一途をたどりました。

【輝き】

日本の経済成長とともに宝塚のまちがとて華やいだ昭和40年～50年ごろ、宝塚歌劇では「ベルサイユのばら」を公演し、空前のブームが起こります。宝塚ファミリーランドも多くの家族連れでにぎわい、温泉と歌劇、レジャーランドのある観光都市として輝き続けます。

【復興】

平成7(1995)年に発生した阪神・淡路大震災では、118人も尊い市民の命が失われました。多数の建物も被害を受け、市民の心は大きく傷つきましたが、皆で力を合わせて立ち上がり、まちは復興していきます。

【発展】

平成に入ってから、まちの景色はずいぶんと変わっていましたが、地域でのつながり、市民の活躍によって、宝塚のまちは発展を続けています。古きよき時代のまちの原風景を胸に、皆が前進し続けるまちが宝塚市です。

昭和33年の温泉竣工まつり

昭和37年ごろ旧市庁舎屋上から見た逆瀬川のまちの風景

昭和39年ごろの武庫川には遊覧ボートを浮かべていました

昭和40年ごろの阪急宝塚駅前商店街

昭和50年代にぎわう宝塚ファミリーランド

勇壮な宝塚だんじりパレード

市民の皆さんと協力して制作した武庫川河川敷の「生」の字

ゴールをめざして宝塚ハーフマラソン大会



夏の風物詩 宝塚観光花火大会

第一章

ふるさと宝塚の原点。ここにあるもの。

The origin of our hometown, Takarazuka - Things you can find here -

宝塚市 誕生からの人口の推移



※単位(人)

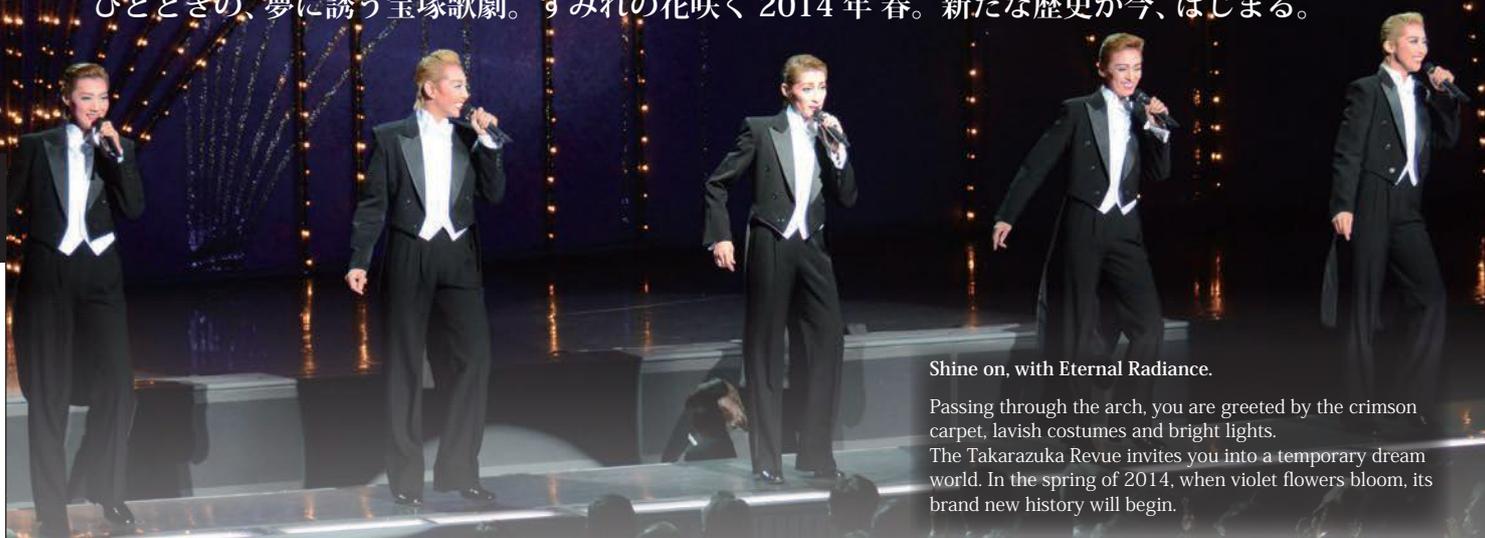
宝塚歌劇、その輝きに魅せられて

アーチをぬければ真紅のじゅうたん、豪華な衣装に輝くライト。
ひとときの、夢に誘う宝塚歌劇。すみれの花咲く2014年春。新たな歴史が今、はじまる。

第一章

ふるさと宝塚の原点。ここにあるもの。

The origin of our hometown, Takarazuka - Things you can find here -



Shine on, with Eternal Radiance.

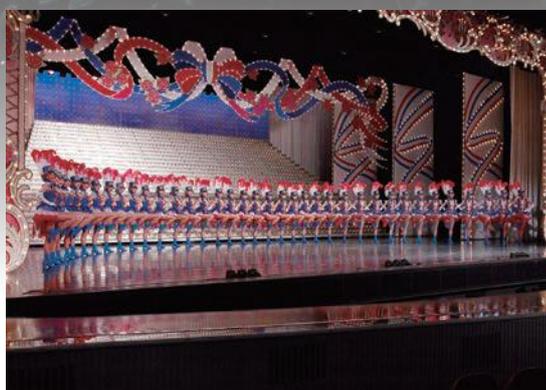
Passing through the arch, you are greeted by the crimson carpet, lavish costumes and bright lights. The Takarazuka Revue invites you into a temporary dream world. In the spring of 2014, when violet flowers bloom, its brand new history will begin.

大正3(1914)年の初公演以来、女性だけで演じる舞台という独自のスタイルを築き上げ、今なお多くの人々に愛され続けている宝塚歌劇。その長きに渡る歴史は、創造と革新の連続でした。

昭和2(1927)年には、当時パリで大流行していたレビューを日本初上演。また、戦後は空前の大ヒットとなった「ベルサイユのばら」をはじめ、数多くの名作を世に送り出してきました。さらに、昭和13(1938)年からは海外公演も実施。ヨーロッパやアメリカ、東南アジアなど世界各地で公演し、いずれも大成功をおさめています。

躍動感あふれるステージ、心躍る魅惑の舞台を作り上げ、多くのファンを魅了するのは個性あふれるスターたち。「花・月・雪・星・宙(そら)」の5組が交替で公演を行い、年間の観客動員数は100万人以上に上ります。ミュージカルからレビュー、ショーに至るまで公演ジャンルは幅広く、電飾きらめく大階段や大掛かりな舞台装置、専属オーケストラの生演奏など歌劇ならではの要素も人気の秘密。華麗なステージをさらに盛り上げます。

100周年を迎え、その輝きは増すばかり。いつの時代も夢を発信し続ける、最高にクールな夢と感動のエンターテインメント集団。それが、宝塚歌劇団です。



息ぴったりのラインダンス

©宝塚歌劇団



夢のフィナーレ

©宝塚歌劇団

宝塚人物名鑑 (敬称略)



©宝塚歌劇団

小林一三 (1873~1957)

宝塚歌劇の生みの親。当時はまだ農村であった宝塚に大阪まで続く鉄道を開通させ、温泉を中心とした一大レジャーランドを築き上げました。「清く正しく美しく」。小林一三翁が描いた夢は、今なお宝塚歌劇団のモットーとして、多くの人々の心に息づいています。



©宝塚歌劇団

春日野八千代 (1915~2012)

長年、宝塚歌劇のトップスターとして活躍。舞台上で活躍する傍ら、後輩たちの指導にも力を注ぎ、宝塚歌劇の発展に大きく寄与するとともに、「タカラヅカ」の名を全国的なブランドに高めました。

手塚治虫の世界へ！

～手塚治虫が過ごしたまち宝塚～

The city where Osamu Tezuka spent his years.
Now, come to the world of Osamu Tezuka!

手塚治虫は5歳から約20年間を宝塚で過ごしました。当時、自宅のあった御殿山は昆虫の宝庫で、少年時代の手塚治虫は自宅裏の雑木林で昆虫採集に夢中になりました。また、宝塚大劇場や宝塚ホテル、新温泉（後の宝塚ファミリーランド）があり、自然と都市が融合したまちでの体験を通して創造力を膨らませ、ふるさと・宝塚は手塚漫画の原点となりました。

宝塚市立手塚治虫記念館は、手塚治虫が唱え続けてきた「自然への愛」「生命の尊さ」をテーマに、青少年の夢と希望を未来へ広げていく施設として平成6（1994）年4月に開館しました。ヨーロッパの古城を思わせる外観と、阪神・淡路大震災からの復興、そして、非核・平和都市のシンボルである「火の鳥」像が来館者を迎えます。

館内に一歩足を踏み入ると、そこに広がるのは、まさに手塚治虫の世界。手塚マンガの1ページを再現した空間で、手塚治虫ゆかりの品や作品を見ることができます。このほか、ほとんどの手塚マンガがそろうライブラリーや、オリジナル映像作品を上映する「アトムビジョン」、アニメーションの制作体験ができる「アニメ工房」などがあり、見て、触れて、発見できる仕掛けがいっぱいの記念館です。さあ、あなたも手塚治虫の世界へー。



「リボンの騎士」王宮風エントランスから、手塚治虫の世界が広がります



アニメーションの制作体験ができる「アニメ工房」

私からひと言

手塚治虫記念館初代館長
宝塚市副市長 山下 稔

微笑む手塚キャラクター、子どもたちの笑顔と歓声が広がる館内。平成6（1994）年、公立として初めてのマンガ記念館がスタートしました。絶大な人気と評価を得て、開館1年目にして50万人目を迎え記念事業を準備していた前日、阪神・淡路大震災が起きました。2か月後「負けるな阪神大震災。十万馬力で頑張ろう」を合言葉に無料再開しました。多くの被災者が涙し、義援金にご協力もいただきました。あれから20年。今も手塚治虫の笑顔が、世界中からのお客様をお迎えしています。

宝塚人物名鑑 〈敬称略〉



手塚治虫（1928～1989）

日本を代表する漫画家。幼少期に宝塚で過ごした思い出は、手塚作品の発想の原点となり、後の作品に色濃く反映されています。特に、「リボンの騎士」は、宝塚歌劇の影響を受けて描かれ、日本のストーリー少女漫画の第1号となりました。

～熱気、活気、癒し、うるおい～。

まちを盛り上げる人たちの熱い思い～

宝塚植木まつり

Takarazuka Plant Fair

毎年、春と秋の2回行われる催しで、季節の草花や植木、園芸用品などが購入できます。会場となる山本新池公園は、千年の歴史を持つ植木産地のまち山本にあり、寄せ植えコンテストや品評会も行われるなど、多くの人でにぎわいます。

花と緑のフェスティバル

Flower and Green Festival

春の陽気の中、芝生が気持ちよい市役所横の末広中央公園で、緑化の推進を図るために行われるイベントです。花苗や植木などの展示・販売のほか、ステージでの演奏やアトラクションも楽しむことができます。

とんとこ祭り

Tontoko Festival

とんとこ祭りの由来は、神輿^{みこし}を先導する太鼓をトントコンと叩くことからきており、昔は天神川に神輿を担ぎ入れ、足で水を掛け合っていました。400年以上前から祭りのことが記録されており、現在は5年に一度行われ、神輿・稚児・神職・陣役らの行列、だんじりの曳行^{えいこう}などでにぎわいます。

宝塚国際室内合唱コンクール

Takarazuka International Chamber Chorus Contest

宝塚ベガ・ホールで、昭和59(1984)年から毎年7月に行われている宝塚国際室内合唱コンクール(TICC)。国内外からレベルの高い合唱団が集まり、磨き抜かれた歌声を競い合います。コンクール前をTICCウィークとし、宝塚合唱連盟の協力のもと、市内を合唱で彩ります。



宝塚植木まつり実行委員会 実行委員長
宝塚市花き園芸協会 前会長・宝塚市花と緑の協会 前副会長
金岡 英雄さん



とんとこ祭り実行委員会 事務局長
金岡 俊彰さん



宝塚国際室内合唱コンクール委員会
理事長 日下部 吉彦さん

昭和46年以来120回以上の開催を数える歴史ある行事です。花苗から盆栽、庭園樹まで約2万点という豊富な品ぞろえです。園芸相談も行っていますので、ぜひお越しください。

花苗や植木だけでなく、音楽や飲食屋台なども楽しめるイベントです。暖かい春の末広中央公園へ家族連れでお出かけしませんか。

山本地区に続く伝統行事であるとんとこ祭りは、地域一体となって支えられています。祭りを開催することで、地域の発展と人々の安寧を祈願しています。

“合唱の原点”室内合唱だけに焦点を当てた、世界でも珍しいコンクールです。毎夏、全世界からトップクラスの合唱団が宝塚に集結して、2014年が第30回記念大会となります。

- Exciting, Vibrant, Healing, and Pleasant -

Sometimes powerfully, sometimes elegantly, let's deliver our passion as Takarazukans who support our city -

宝塚観光花火大会

Takarazuka Fireworks Festival

大正2（1913）年に始まり、100年を迎えた歴史と伝統のある花火大会です。テーマを持った花火と音楽による競演が特徴で、夏の風物詩として市民に長く愛され続けています。



宝塚サマーフェスタ

Takarazuka Summer Festa

かつて阪神競馬場で開催していた宝塚まつりを継承する形で、毎年8月に開催しています。飲食や物販などの屋台が多数並ぶほか、メインステージでは宝塚サンバやYOSAKOI踊り、キッズダンスなどが披露されます。安倉音頭や新宝塚音頭による総踊りでは、やぐらを囲んで市民が集う夏の恒例イベントです。



宝塚音楽回廊

Takarazuka Music Promenade

レストランや公園など、至るところが音楽ステージに様変わりし、まちが音楽に包まれるイベントです。全会場入場無料で、幅広いエリアで開催されています。今回はどんなアーティストが登場するのか、毎年多くのファンが楽しみにしているイベントです。



宝塚市国際観光協会 会長
松本 孝一さん

宝塚観光花火大会は「夏の風物詩」として、宝塚のまちとともに長い歴史を歩んできました。音楽とシンクロ演出する花火は宝塚ならではの華やかさを表現し、間近で打ち上げられる花火が真夏の夜空を彩り、皆様に夏の思い出と感動をお届けします。



宝塚サマーフェスタ実行委員会 委員長
宝塚青年会議所 理事長
蛭子 真さん

サマーフェスタ等を通じて、地域が元気になる、魅力あふれる人材がたくさん出てくるまちを願っています。イベントを通じて、まちの伝統文化を伝え、生きがいを感じ、東北の支援もしていきます。



宝塚音楽回廊実行委員会 実行委員長
関西ジャズ協会 会長
大塚 善章さん

宝塚は何処よりも音楽の似合うまち。いろんな地域のイベントとコラボし、多くのファンに愛されながら拡大し続ける宝塚音楽回廊にご注目ください。

おいしいまち宝塚 グルメアカデミー

Delicious City Takarazuka Gourmet Academy

和・洋菓子やパン、中華にフレンチ、イタリアンから和食に至るまで、市内の人気店が自己のお店を会場にして開く、食をメインにした講座です。専門知識やプロならではのコツを学ぶ貴重なチャンスとして人気の催しです。



収穫祭

Harvest Festival

実りの秋の収穫を祝い、豊かな自然に恵まれた市北部の西谷地域で開催されるイベントです。丹精こめて栽培された農産物や加工品の販売のほか、品評会なども行われます。農業を通して、人と人との交流や食の安全、地産地消を考える機会となっています。



宝塚だんじりパレード

Takarazuka Danjiri Parade

市内の各地域からだんじりが集結し、勇壮なパレードを繰り広げます。宝塚のだんじり祭りは、江戸時代に始まりました。その後、市内各地域に広まって、現在では19台のだんじりがそれぞれの地区で大切に受け継がれています。



おいしいまち宝塚実行委員会
委員長 三輪 青丹さん



宝塚市自然休養村管理運営協議会
会長 小東 善一さん



宝塚だんじりパレード実行委員会
実行委員長 田中 武彦さん

市内の魅力あるお店を知っていただく良い機会になればと思っています。皆様のご参加をお待ちしております。

西谷の秋の素晴らしい里山風景とともに、この地で収穫された新鮮な農産物や、美しい花き類の数々をお楽しみください。今後も、たくさんの方に安全・安心な農産物を提供するため、地域が一体となって収穫祭を盛り上げていきたいと思っています。

だんじりのまち「宝塚」をどんどんPRしていきたいと思っています。回を重ねるごとに、参加台数も増えています。皆さん、ぜひ見に来てください。

宝塚映画祭

Takarazuka Film Festival

市内唯一の映画館シネ・ピピアで毎年11月に開催している市民映画祭です。往年の宝塚映画製作所生まれの傑作から、近年の秀作まで幅広く上映。地域にこだわりながらも、映画ファンもうならせるエッジの効いたプログラムと企画を楽しむことができます。



宝塚映画祭実行委員会
プロデューサー 岩淵 拓郎さん

10代から70代まで、地域と映画を愛する市民が中心となって運営。実行委員&ボランティアも随時募集中です！

宝塚ハーフマラソン大会

Takarazuka Half Marathon

毎年12月に行われるマラソン大会です。宝塚市の中心を流れる武庫川に沿ったコースを、たくさんのランナーがゴールをめざして快走します。



宝塚ハーフマラソン大会 実行委員長
宝塚市体育協会 会長
田名網 陽子さん

市民スポーツ振興と青少年健全育成のシンボルとして、宝塚に全国からランナーの皆様をお迎えし、多くの関係者やボランティアの方々のご協力により開催しています。

ミニたからづか

Mini Takarazuka

子どもたちが、まちの主役として、銀行や警察、飲食ブースなどの仕事を楽しく体験することができる人気のイベントです。働いて得たお金「ZUKA」で食べ物を購入したり、遊んだりすることができます。子どもたちは大喜びです。



ミニたからづか実行委員会 実行委員長
大西 登司恵さん

ミニたからづかのまちでの子どもたちの笑顔は格別です。イベントをきっかけに、子どもたちが成長し、将来の宝塚を担えるようになってほしいですね。

「命」を大切に作る支え合いのまちづくり

たくさんの人に支えられて歩んできた。
今度は、誰かの支えになろう。

Developing a city where people respect life and support each other

We have come this far thanks to the support of many people.
Now it is our turn to offer our support.



震災犠牲者慰霊のための
「鎮魂の碑」
(市西部ゆずり葉緑地)



震災犠牲者追悼のため「生」の石積みオブジェをライトアップしました。
(武庫川中州)



復興への確かな歩みを刻む

市内でも、118 人もの尊い命が失われ、1 万棟以上の家屋が全半壊した「1.17」。阪神・淡路大震災を経験した私たちは、あの日から、たくさんの人に支えられて復興への歩を進めてきました。あの日を決して忘れてはならない。震災の経験を次の世代に伝え、防災意識を高めるために、宝塚市では防災・減災に向けた取り組みを積極的に行っています。

総合防災訓練

阪神・淡路大震災が起こった1月17日が巡ってくる度、大規模な直下型地震を想定した総合防災訓練を実施しています。消防団をはじめとした防災機関や災害ボランティアなど、幅広い機関が参加して防災力の向上に取り組んでいます。



地域防災の担い手たち

広域にわたる大災害が発生したとき、地域でともに助け合う共助の力が不可欠。宝塚市では一人ひとりが地域防災の担い手となり、市全体で災害に強いまちをめざしています。



新しい防災マップをすべての市民へ

平成 25 (2013) 年に、既存のマップをリニューアルした新しい防災マップを作成し、市内全戸に配布しました。新たなマップは市域を7つのブロックに分割し、自宅から指定避難所までの経路を確認できるようにするなど見やすさに配慮したつくりとなりました。



学校園での防災訓練

市内の学校園では、子どもたちに震災の教訓を伝えていくために、PTA や地域のコミュニティと協働で、防災力向上に向けた実践的な取り組みを行っています。



阪神・淡路大震災で傷を負った宝塚市にとって、当時、全国各地から寄せられた支援は、温かい希望の光となりました。その光を頼りに培ってきた地域の結束力は、震災をはじめ、あらゆる災害から大切な命を守ることに生かせるように。そして、どこかで大規模な災害が発生したときには、心に寄り添う支援ができるように。

震災を経験した私たちだからこそ、できることがあります。

There is something we can do all the more because we have experienced the 1995 earthquake disaster. In those days, the warm support we received from the whole country brought a ray of hope to us who were suffering from the disaster. Strengthening our unity with the help of that light, we will put our strength together to protect the precious lives of people from earthquakes and all disasters. And if a large scale disaster occurs somewhere, we would like to be there for the people who suffer it. With such thoughts, various efforts are carried out in Takarazuka City.



絆が生んだ明日への希望

忘れもしない「3.11」。宝塚市では、あの日以降被災地支援を続けています。被災した東北の市町村では、未だ復興が進まない地域がたくさんあります。私たちの支援は微力ですが、阪神・淡路大震災の時にたくさんの人から差し伸べてもらった手のぬくもりを忘れず、被災した人たちに寄り添っていきます。そこで生まれた絆が明日につながると信じて。

被災地の子どもたちと交流

岩手県大船渡市の中学生と本市の中学生が、スポーツを通じた交流を深めました。震災前は出会うことのなかった中学生同士が、交流を通じて心の成長を遂げました。



宝塚希望応援隊

市民や市職員等が被災地を訪れ、がれき処理や泥だしのお手伝いを行いました。花苗の植え付けや落語などでも元気をお届けしました。



被災地へ職員を派遣

復興を加速させるため、現在も被災地では多くの職員が全国から派遣されて業務にあたっています。宝塚市も、被災地のニーズを見極めながら、中長期で派遣を続けていきます。



自治会から市民による支援も

阪神・淡路大震災の直後に義援金と救援物資を直接届けていただいた福島県須賀川市に、宝塚市自治会連合会から義援金を贈りました。今もなお、自治会などの市民団体が須賀川物産展を開催するなど、市民による支援が続いています。



住民参加のまちづくり

手を取り合って協働のまちづくりを進める。

Developing a city of civic collaboration

Citizens developing a town in collaboration with each other.

市民と行政をつなぐ 協働のカタチ

協働とは・・・

市民と行政および市民と市民が、お互いに責任を持って役割を分担し、協力して事業を実行すること。

協働の主体

自治会

地域の最も身近な基礎的な住民の組織で、安全・安心な住みよい環境づくりに取り組んでいます。平成25(2013)年12月現在、市内に283の自治会が組織されており、その多くは自治会相互の連携を図る宝塚市自治会連合会に加入しています。

住民参加のまちづくりをめざして

宝塚市自治会連合会 会長 尾崎 久

日本では昔から、「向こう三軒両隣」「遠くの親戚より近くの他人」という言葉にもある通り、近所に住む人たち同士で助け合って暮らしてきました。自治会の活動の基本は「互助」、すなわちお互いに助け合うことです。

現在、宝塚市でも高齢世帯や単身世帯も増えていますので、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、自治会としてもさまざまな活動に積極的に取り組んでいきます。真の住民参加のまちづくりをめざして、行政とも連携して、宝塚市を安心・安全で、住みやすい場所にしていきたいと考えています。また、より多くの市民の皆様が、自治会の活動に参加してくださることを願っています。

市制60周年を心からお祝いするとともに、今後、まち全体がさらに大きく飛躍していくことができるよう、自治会連合会としてもその一翼を担っていきたく思います。



まちづくり協議会

まちづくり協議会は、自治会を中核として、民生・児童委員、青少年補導委員、PTA、子ども会、老人会、各種活動団体、ボランティア等、地域を支えるさまざまな団体が協議・連携し、ともに協力して活動を展開しており、全市域に概ね小学校区ごとに20のまちづくり協議会が組織されています。まちづくり協議会には、それぞれの地域における課題を解決するために、事業を行う実施主体の役割と、多様な団体の意見等をコーディネートして協働を進める役割があります。安全・安心で快適に住み続けることができるまちづくりのために、災害発生時の助け合いや、防犯、子ども・高齢者の見守り、環境保全、景観形成、美化等のさまざまな活動により、安全、健康、福祉、教育、環境、文化等の地域における課題の解決に取り組んでいます。

また、代表者が集まり、意見交換や情報交換など交流する場もあります。



土のう作りの様子

地域団体・市民活動団体

それぞれの団体がテーマを設定して活動しています。その活動範囲や方法の自由度は高く、多様な活動を行っています。また、同じ悩みや問題などを抱える人たちの交流を深め、自立した生活や社会参加を促す役割を担っています。

事業者

地域社会の中で必要とされる財やサービスを提供する事業を行う場合に、営利を目的とした活動を行う組織や個人が収益事業と結び付けることで強力な担い手となります。また、自ら社会貢献活動を行うこともあります。

中間支援団体



井戸端会議の様子

社会福祉協議会、地域包括支援センター、宝塚NPOセンターなどの機関が、さまざまな団体の活動情報を提供したり、つながりの場をつくることで、協働の

担い手の間に立って、パイプ役としてそれぞれの活動を支援し、市民活動の促進を図っています。

一人でたくさん頑張るよりも多くの方が少しずつ頑張るほうが、一人ひとりの負担が軽減され、より大きな成果が期待できる。それが協働の魅力です。お互いの長手を理解し、役割分担を考えながらつなげていく。宝塚市では「市民一人ひとりがまちづくりの主演」となり、市民と市民、市民と行政が協働しながら、よりよい地域社会づくりを進めています。

(宝塚市協働の指針策定委員会 会長 久 隆浩)

Collaboration of many people will not only reduce the burden on each person but also bring a larger fruit than what would be brought by an individual's effort, and that is the most appealing aspect of the collaboration. People collaborate with each other, playing the roles given to him or her on the basis of mutual understanding of who is good at what or who can do what for the society. In Takarazuka City, people collaborate with each other and with the municipal government to build up a better local community based on the common belief that "every citizen is a leading player in the development of a city".



市民との協働を推進していくための基本原則や形態などを示した「宝塚市協働の指針」を策定しました。

老いも若きも集う みんなのきずなが集まる居場所 宝塚市きずなの家



きずなの家
母と子のコミュニティカフェ・花のみち



きずなの家 ともにいきる宝塚

宝塚市には、赤ちゃんからお年寄りまで、幅広い世代の地域の皆さんが集える温かい家「宝塚市きずなの家」があります。きずなの家とは、市民の団体が主体となって、老いも若きも気軽に集える地域の居場所をつくっていただくものです。市民の団体が市内にある空き家・空き室を借り上げ、運営することに対して、市が家賃や運営費の一部を助成する協働事業として取り組んでいます。平成26(2014)年1月現在、市内には4つのきずなの家があり、子育てをする母親や外国籍の子どもたち、男性介護者や支え合いの人たちが集う穏やかな居場所となっています。



きずなの家 ラ・ビスタよりあい広場



きずなの家 ほっこり庵

市民の力と共に

公園アドプト制度

「アドプト」には、英語で養子縁組をするという意味があります。公園アドプト制度は、市民ボランティアの皆さんに地域の公園などの公共施設を管理していただくもので、身近な公園に、さらに親しみを感じることができます。宝塚市で平成19(2007)年から導入されたこの制度は、平成26(2014)年3月現在、市内にある42の公園を26の自治会やボランティアの皆さんに管理していただいています。



“地産地所有”の取り組み(市民発電所の稼働)

私たちの生活の中になくはならないエネルギーへの関心が高まる中、平成24(2012)年12月、NPO法人新エネルギーをすすめる宝塚の会の皆さんが手作りの市民太陽光発電所1号機を設置し、続く平成25(2013)年11月には2号機を設置しました。それぞれから発電された電力は、全量売電されると同時に、クリーンな電力として近隣地内で消費されています。地域で創り、地域が所有する「地産地所有」のエネルギーの取り組みが始まっています。



誰もが自分らしく、 心豊かに生活できるまちづくり

生き生きと暮らし続けることができるように。

Developing a city where all people can be themselves and live spiritually rich lives.
To enable every citizen to lead a life with plenty of positive energy.

手塚治虫記念館前にたたずむ「火の鳥」像は平和のモニュメント。
生命の象徴である火の鳥は、「生命を大切にしてくれる未来を信じたい」と願い、私たちをじっと見守っています。

■ 平和を願うまち

豊かな自然とモダンな建築に彩られた美しい宝塚のまちも、戦時中は軍需工場の建設や空襲など、戦争の影響を受けてきました。宝塚市では、こうした歴史を二度と繰り返さず、次世代へと続く平和な社会の実現を願って、平成元（1989）年に「非核平和都市」を宣言しました。すべての人の人権が尊重される明るく住みよい社会の実現のため、今後も、平和への願いを未来へとつないでいきます。

～平和への歩み～

| | |
|-------------|------------------------|
| 平成元（1989）年 | 非核平和都市宣言 |
| 平成8（1996）年 | 人権尊重都市宣言 |
| 平成15（2003）年 | 核兵器廃絶平和推進基本条例を制定 |
| 平成21（2009）年 | 平和首長会議、日本非核宣言自治体協議会に加入 |



市役所横の末広中央公園には、広島市から寄贈された「被爆アオギリ二世」（左写真）と、長崎市から寄贈された「被爆クスノキ二世」が、それぞれ平和のシンボルとして植樹されています。

■ 心豊かに暮らせるまち

まちのあちこちに憩いのスペースを

宝塚市内には、まち行く人たちが足をとめ、ほっと一息つける「街角ベンチ」が置かれています。阪急逆瀬川駅から市役所に向かう大通りには、すみれのイラストをあしらったベンチ、花のみちには「花のみち記念ベンチ」（右写真）、末広中央公園の「被爆アオギリ二世」の前には「平和祈念ベンチ」があります。皆さんもお気に入りのベンチを探してみませんか。



読書を通して心豊かに暮らす

人生を心豊かなものにしてくれる読書。宝塚市立図書館では、「全ての市民にとって利用しやすい図書館」をめざして、平成22（2010）年に「図書館サービス向上計画」を策定しました。来館が難しい人にも読書の機会を持ってもらうためのサービスや、子どもが本を楽しむための働きかけなど、子どもからお年寄りまで、すべての人に読む楽しさ、知る喜びを提供するための取り組みを行っています。



定期的に市内を巡回する「移動図書館すみれ号」は、図書館から遠く離れた地域にも本との出会いを運んでいます。



図書館の閉館時にも本を返却できるようにと考えられたブックポストは、たくさんの人が訪れる市役所内にも設置しています。

誰もが自分らしく、生き生きと暮らすことができる社会の実現は、市民みんなの願いです。そして、そんな平和な社会は「一人ひとりの幸せ」というピースが集まってできています。たくさんの笑顔や喜びに出会うことができる、すべての人にやさしいまちへ。宝塚市は一步一步、歩みを進めています。

It is every citizen's wish to realize a society where everybody can be themselves and lead active lives. Such a peaceful society is made up of combined elements of each person's individual happiness. A city that is kind to every person - Takarazuka City is moving forward step by step.

■すべての人にやさしいまち

まずは宝塚の玄関口から

平成 21（2009）年から整備を進めてきた JR 宝塚駅前には、ゆったりとした幅広の歩道が広がる宝塚の玄関口。身体障がい者用の停車スペースや、視覚障がい者のための音声誘導装置等を完備した福祉多機能トイレ「みんなの駅前トイレ」を併設した形で生まれ変わり、誰もが安全・快適に利用できるよう配慮した造りになっています。



シンシアのまち宝塚

身体障害者補助犬は、障がいのある人の日常生活をサポートする大切な役割を担う、盲導犬・介助犬・聴導犬の総称です。平成 14（2002）年には「身体障害者補助犬法」が成立・施行され、公共施設や公共交通機関はもちろん、スーパーやレストランといった民間施設でも、補助犬の同伴ができるようになりました。

宝塚市は、この法律のきっかけとなった介助犬「シンシア」（右写真）が活躍したまち。平成 11（1999）年には「シンシアのまち宝塚」を宣言し、補助犬の普及啓発を機に、すべての人にやさしいまちをめざしています。



私からひと言



写真は 2 代目のパートナー 介助犬エルモ

日本介助犬使用者の会 会長 木村佳友さん

愛嬌のあるたれ目のシンシア。私の不自由な生活を支えてくれただけでなく、素直で健気な姿は、多くの人に笑顔と優しさを与え、身体障害者補助犬法の制定に大きな役割を果たしてくれました。

その活躍から、宝塚市では「すべての人にやさしいまちづくり」をめざすシンボルとして、「シンシアのまち」を宣言しています。補助犬シンポジウムを障害者週間記念事業と一緒に開催するなど、全国に先駆けて補助犬の普及啓発にも取り組んでいます。

宝塚市がいつまでも、「相手を思いやる気持ち」を大切にするまちであってほしいと思います。

自分を大切に 人を大切に ふるさと宝塚を大切に作る人づくり

まち全体で、子どもたちの成長を見守る。

Nurturing a community where all residents respect themselves and others, and cherish their hometown of Takarazuka
The whole city together with its citizens watching over the growth of children.

充実した 子育て環境

一人ひとりの健やかな成長を願って

平成 24（2012）年から、従来の 4 か月・1 歳 6 か月・3 歳児健診に加えて、新たに「10 か月児健診」を開始しました。また、平成 23（2011）年から、4 か月児健診の際に一人ひとりの赤ちゃんに絵本を手渡す「ブックスタート」活動を実施するなど、子どもたちの健やかな成長を促す仕組みづくりを進めています。



赤ちゃんとの外出を楽しもう

宝塚市内には、乳幼児を連れた人が外出しやすいように、授乳やおむつ替えができるスペースを設けた施設「赤ちゃんの駅」が設置されています。平成 25（2013）年 9 月現在、市内に 101 か所あり、施設には目印となるフラッグやステッカーが掲げられています。



子どもたちのために心をひとつに

市立西谷認定こども園、西谷小・中学校では、運動会や文化発表会での合唱を合同で行うなど、異年齢や地域の人との触れ合いを大切にしています。これからも、子どもたちが互いに育ち合う環境を園小中の連携を通して作り出し、子どもたちの生きる力を育てていきます。



障がいのある子どもたちの自立をめざして

特別支援教育を受けている中学 3 年生を対象に、毎年 8 月に「特別支援教育推進派遣事業」を実施しています。この事業は、平成 3（1991）年、清荒神清澄寺様の支援により始まり、親元を離れ「自立」をめざして、乗馬セラピーを中心にさまざまな体験活動を行います。平成 24（2012）年度からは派遣先を九州とし、4 泊 5 日の日程で実施しています。



子どもはまちの“宝”。私たちの願いは、そんな子どもたち一人ひとりの健やかな成長です。宝塚市は、子育てをまちぐるみでサポートし、「育むことが楽しくなるまち」を実現します。また、子どもに生きる力を育む教育を推進し、生き生きとした笑顔があふれるまちをめざしています。

今後、学校・家庭・地域をはじめ、市全体が一体となって、子どもたちの笑顔と成長を見守っていきます。

The entire city works together to watch over the development of our children. The healthy growth of both the minds and bodies of children is every citizen's wish. Takarazuka City is promoting education in cooperation with kindergartens, nursery schools, and elementary and junior high schools with the idea of nurturing children throughout those years in the hopes of raising children who are spiritually developed so that they can take care of themselves, others and the city where they are born and grow up.

特色ある教育

日本一の学校給食をめざして

市立小・中学校では、全校が直営による自校調理場方式により、調理員が真心を込めたおいしい手作り給食の提供に努めており、給食の時間は、子どもたちの楽しそうな笑顔があふれています。また、給食室に炊飯設備を整備し、炊き立てのご飯を提供する自校炊飯方式に移行する取り組みなども実施しています。



宝塚らしさを生かして

市内の学校・園では、子どもたちが^{こぶ}箏や太鼓といった日本の伝統楽器を使って演奏を披露する「邦楽の集い」を開催しています。また、宝塚歌劇を市内の中学校の生徒たちが観劇するなど、芸術のまち宝塚で豊かな感性を持った子どもたちを育てています。



本との出会いで豊かな感性を育む

平成 23 (2011) 年から、市内すべての市立小・中学校の図書館に図書館司書を配置して、図書環境整備、読み聞かせやブックトークなどを通して子どもたちの読書への興味関心を広げています。また、手塚治虫の本やマンガを集めたコーナーを設け、子どもたちが手塚作品に触れ、ふるさと宝塚を誇りに感じるきっかけづくりをしています。



社会参加を促す仕組みづくり

子どもたちが社会の一員として自ら育つことができるよう、市政やまちづくりに参加できる仕組みづくりを進めています。平成 12 (2000) 年から毎年開催している「子ども議会」に加え、平成 24 (2012) 年からは、新たに「子ども委員会」を開催しました。



安全・安心なまちづくり

住み慣れたまちでいつまでも暮らせるように。

Developing a safe and secure city
To live in a familiar city forever

水道

みんなの水 宝塚市上下水道事業

私たちが普段から使う水を管理する宝塚市上下水道事業。宝塚市の上水道は基本的に、浄水場で処理された水を標高の高い配水池に送り、そこからの落差で各家庭に給水をする自然流下方式をとっています。水質検査の実施や災害に備えた水道施設の耐震化など、安全・安心な水道水を供給できるよう努めています。

更なるサービス向上に向けて 上下水道局お客さまセンター を開設

平成25(2013)年10月に、サービス向上と効率的な事業運営を図るため、上下水道局お客さまセンターを開設しました。上下水道の使用開始、中止の受け付けや、水道メーターの検針などの業務を行っています。

消防

守る 強い消防力をめざして

宝塚市消防本部では、市民の大切な生命と財産を守り、救急救命体制や消防体制の充実を図るため、さまざまな取り組みを進めています。最近では、より早く救護者のもとへ向かうため、救急隊の増隊や少量の水で大きな消火効果が得られるCAFS（キャフス）装置を搭載したはしご付き消防ポンプ自動車の配備、災害現場でのデジタル方式の消防救急無線の運用など最新の機器を設置・強化し、さらなる安心を提供していきます。

救急隊の増隊

年々増加する救急要請に対して、平成25(2013)年4月から東消防署に救急隊を1隊増隊しました。これにより、市内で6隊の救急隊が配備されることになり、より早く救護者のもとへ駆け付けることができる体制が整いました。



住む人にとっては快適な暮らしを楽しむことができる、また、訪れる人にとっては住みたくくなるようなまちの姿をめざして、宝塚市では、水道・消防・医療・交通安全など、多方面から安全・安心な住環境づくりに取り組んでいます。

Takarazuka City is striving to creating a safe and stable living environment, focusing on many different areas, such as its water supply, fire fighting, medical services, and traffic. We hope to create a city where citizens can live happily and comfortably, and visitors will want to move here.

宝塚市立病院

医療

地域に根差した安全・安心な医療の提供

宝塚市立病院は、地域の中核病院として、診療体制の充実、救急体制の強化、各施設の整備などに取り組んできました。また、地域医療支援病院として、市民の皆さんが地域で安心して継続した医療を受けられるように、地域医療連携の中心的役割を担います。今後も、診療機能の充実とともに、医療連携・介護連携、疾病予防などを進め、地域の医療機関とともに安全・安心な医療の提供に努めます。

血液浄化療法センター

透析装置30台・ベッド数30床を有し、多くの慢性腎臓病の患者さんを受け入れています。血液透析療法だけではなく、多様な血液浄化療法にも対応しています。



消化器内視鏡センター

少しでも苦痛を和らげるため、鎮痛剤を使用し、寝ている間に内視鏡検査を行います。また、カプセル内視鏡システムといった最新の医療機器を導入しています。



がん診療支援・緩和ケアセンター

がんと診断されたときから生涯にわたり、納得のいく治療が受けられるように、がんに精通した医師と専任の看護師がサポートしています。お気軽にご訪問ください。



市民公開講座

平成 24 (2012) 年 6 月から、医師や看護師などが病院のことや病気のことを分かりやすく市民に発信する講座を継続して行っています。



交通

安全な道路交通環境をめざして

宝塚市では、警察署や交通安全協会等の関係団体、地域とも協力して、歩行者や自転車利用者、バイクや自動車の運転者など、幼児から高齢者まで、全ての人を対象とした交通ルールやマナー教育・啓発活動を行っています。一方、道路については、安全で快適に、そして利便性を高めるため、バリアフリー化や主要交差点の改良、狭い道路の拡幅など、順次整備を進めています。



市政

市民一人ひとりを大切にする市政の場

A city government that values each and every one of its citizens

武庫川沿いにそびえ建つ落ち着いたベージュ色のクラシック風な建物。建築家、村野藤吾氏の設計による市庁舎は、昭和 55 (1980) 年 9 月から業務を開始しました。建物の特徴ともいえる円形の塔は、市議会の議場となっており、各階にはバルコニーがめぐらされています。

庁舎内にはミニコンサート・展示会ができる市民ホール、資料閲覧コーナーなどがあるほか、屋上には太陽光発電システムを備え、環境への取り組みも行っています。

市民生活に最も身近な基礎自治体として、今後も常に市民の暮らしに寄り添い、より一層質の高い市民サービスを実践していくとともに、市民との協働のまちづくりを進め、命を大切にする支え合いのまちの実現をめざしていきます。



市庁舎外観



市民ホール



屋上に設置された太陽光発電システム



宝塚市議会議場



定例会議の様子



議場コンサートを開催

議会

よりよいまちづくりのために

For development of a superior city

宝塚市議会は、市民の代表として選ばれた 26 人の議員によって構成され、さまざまな議案の審議を通して、市民の声を市政に反映させる役割を果たしています。

議会は、一年に 4 回開かれる定例会のほか、必要に応じて開催される臨時会があります。また、議案等を詳しく審査するため、委員会を設置して活動しています。

議会では、「市議会報かけはし」や市議会ホームページ、議会報告会、本会議のインターネット中継などを通じて、市民の皆様には議会の活動を広くお伝えするよう努めています。

また、市民の皆様が気軽に議場へ足を運んでいただけるきっかけとなるよう、議場コンサートや講演会も開催しています。これからも議会基本条例の精神に基づき、さらなる議会改革を進めるとともに、市民に開かれた議会をめざしていきます。

■市の概要

昭和29(1954)年4月1日、武庫川をはさんで宝塚町と良元村が手を結び、宝塚市が誕生しました。翌年には隣接する長尾村と西谷村を編入し、現在の市域がほぼ確定しました。市域は南北に細長く、住宅地が広がる南部市街地と、豊かな自然に囲まれた北部農村地域に分かれています。市制施行当時、約4万人だった人口は、昭和62(1987)年には20万人を突破。武庫川の清流と六甲・長尾山系の美しい山並みに象徴される豊かな自然、千年の伝統を誇る植木産業や古代の息吹を今に伝える史跡の数々、世界的に有名な宝塚歌劇など、沢山の宝で構成されたこのまちには例年多くの観光客が訪れ、まちは活気に満ちています。

- ◇面積 / 101.89km²
- ◇位置 / 東経 135° 21' 36"、北緯 34° 47' 58"
- ◇広がり / 東西 12.8km、南北 21.1km
- ◇海拔 / 最高地点 591.0 m (小林字西山 19 番地)
最低地点 18.1 m (高司 4 丁目 80 番地)

■市章

「タカラ」の3文字をかたどり、昭和29(1954)年4月に制定。武庫川をはさんで手をつなぐ宝塚のまちを表現しています。



■市の花・木・鳥



市花 スミレ



市木 サザンカ



市木 ヤマボウシ



市鳥 ウグイス



市鳥 セグロセキレイ

■宝塚市名誉市民〈敬称略〉

春日野 八千代 (かすがの やちよ、1915～2012)

昭和4(1929)年に宝塚歌劇の初舞台を踏み、約80年間の長きにわたり舞台生活が続け、宝塚歌劇の発展を担いました。昭和24(1949)年には宝塚歌劇団理事に就任。長年にわたり素晴らしい舞台活動が続け、「タカラヅカ」の名を全国的なブランドに高めました。

手塚 治虫 (てつか おさむ、1928～1989)

日本を代表する漫画家として、約42年間、常に新しい分野に挑戦し、その作品は世代を超えて多くの読者に感動を与え、「自然への愛と生命の尊さ」を伝えてきました。その活動は、漫画史に大きな足跡を残すとともに、日本のみならず世界中の文化や経済にも影響を与えています。

小林 一三 (こばやし いちぞう、1873～1957)

明治43(1910)年、有馬電気軌道株式会社 専務取締役として梅田一宝塚間営業を開始した後、阪急電鉄社長、会長を務め、大正2(1913)年には宝塚唱歌隊(現宝塚歌劇団)を創設するなど、観光都市としての発展に寄与しました。

平塚 嘉右衛門 (ひらつか かねもん、1875～1953)

良元村村長、武庫郡会議員、兵庫県議会議員を務め、武庫川逆瀬川護岸工事や道路網の新設、上水道の敷設など郷土開発に尽力。宝塚旧温泉、宝塚ホテル、宝塚ゴルフ倶楽部を創設し、観光住宅都市としての基礎を築きました。

小野 兵一 (おの ひょういち、1899～1969)

昭和42(1967)年、市内に財団法人小野茶之寿会を創設。長寿老人ホーム花屋敷マンションを建設し、社会福祉事業の発展に寄与しました。

■広がる交流

姉妹都市 島根県松江市

昭和42(1967)年、特急やくもの宝塚駅停車が縁となり姉妹都市提携。平成24(2012)年には災害時における相互応援に関する協定を締結し、より一層絆を深めています。

姉妹都市 アメリカ合衆国 ジョージア州オーガスタ・リッチモンド郡

平成元(1989)年に姉妹都市提携。アメリカ南部でも有数の自然豊かな美しい庭園都市。数多くのゴルフ場を持つなど、宝塚市との共通点も多い都市。

姉妹都市 オーストリア共和国 ウィーン市第九区

平成6(1994)年に姉妹都市提携。劇場や映画館が数多く存在する文化芸術の薫り高い地区。フォルクスオーパー(歌劇場)でも有名。

教育国際交流 オーストラリア連邦 西オーストラリア州メルビル市

昭和61(1986)年から両市の中学生の派遣、さらに続く翌年からは受け入れによる交流を開始し、学校体験や文化体験学習を通じた取り組みを実施しています。

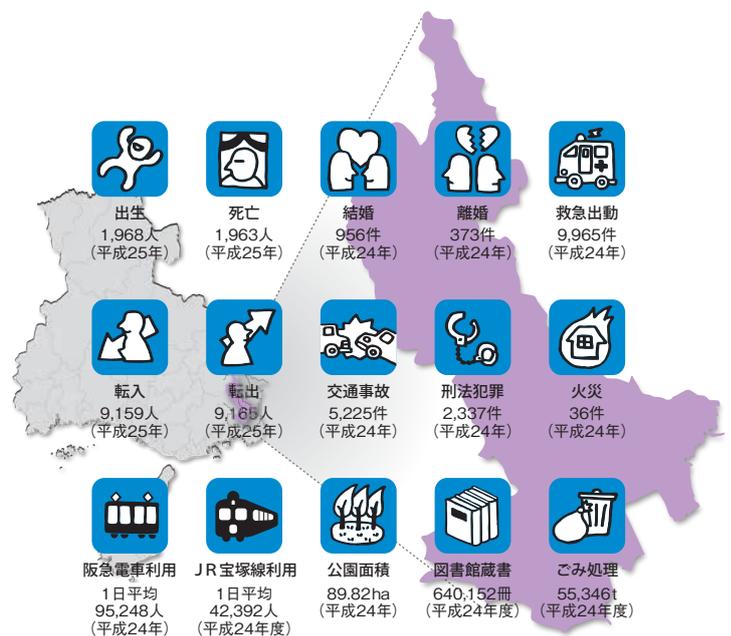
きずなづくり 愛知県長久手市

介助犬総合訓練センター「シンシアの丘」があるまち。平成24(2012)年には、福祉施策から行政間の緩やかな協力関係を築くため、「きずなづくりの誓い」の覚書を交換。

災害相互応援 大分県大分市

平成24(2012)年、災害相互応援に関する協定を締結。400km近く離れた両市が同時被災する可能性は低く、防災・減災の頼もしいパートナーとなりました。

■市の統計資料





宝塚市市勢要覧 2014



平成 26 (2014) 年 3 月発行

企画・編集 ◇ 宝塚市市民交流部きずなづくり室広報課

〒665-8665 兵庫県宝塚市東洋町 1 番 1 号

TEL 0797-77-2002 (直通) FAX 0797-74-6903

HP <http://www.city.takarazuka.hyogo.jp/>

制作 ◇ 有限会社ワイキューブ